

岩見沢市 大槻賢紀氏の経営概要

1 岩見沢市の概要と農業

岩見沢市は、広大な石狩平野の中央に位置しており、農業はその恵まれた大地の恩恵を受けて、北海道有数の稲作地帯として発展してきました。近年は米の生産調整により、稲から玉葱などへ徐々に転換が進み、現在は水稲、小麦、大豆、玉葱などが基幹作物となっています。

気候は、石狩湾からの偏西風の影響をうける豪雪地帯ですが、農耕期間の気候は比較的温暖であり、特に農業には恵まれた日本海型の気象条件にあります。



大槻賢紀氏

2 大槻賢紀氏の経営概要

大槻氏の経営面積は23.29haで、岩見沢市栗沢町で水稲・畑作に花きを組み入れた複合経営を営まれています。

畑作物は小麦・大豆・なたねを取り入れた輪作体系を実践されています。なたねは小麦連作を回避するために地域でも早くから導入されました。

大豆やなたねは狭畦栽培に取り組むことで、播種機やカルチなど新たな機械投資を必要としないで輪作体系を実現されています。

輪作や土づくり、排水対策について高い意識をお持ちであり、ご自身の土地や経営に合った方法を工夫と検討を重ねながら取り組まれています。

表1 大槻氏の作付構成と割合

作物名	作付面積(ha)	作付比率(%)
水稲	11.71	50.3
秋まき小麦	4.98	21.4
春まき小麦	2.36	10.1
大豆	1.96	8.4
なたね	1.77	7.6
花き	0.24	1.0
その他	0.27	1.2
合計	23.29	100.0

3 小麦の生産状況

大槻氏の過去2か年の10aあたり収量は、市平均に対して約130～150%であり、高い収量水準を維持されています。平成30年産においては細麦傾向となりJA施設調製品の等級は2等品位が多くを占めたものの、低収年でありながらもJA管内平均収量の185%と高水準の収量を確保されました。これは雨に悩まされた本年産において、大槻氏の排水対策を徹底した効果が顕著に表れたと成果と思われます。

表2 最近3年間の小麦生産状況

年産	小麦品種名	小麦栽培面積 (ha)	麦作率 (%)	10a当たり収量		左の1等麦比率 (%)	総収量に対する1等麦比率 (%)
				農家単収 (kg)	統情単収 (kg)		
平成28年	きたほなみ キタノカオリ	2.0	26.0	638	489	100.0	91.5
		3.9		613		100.0	90.4
平成29年	きたほなみ キタノカオリ	2.0	22.1	739	485	100.0	85.3
		3.0		631		100.0	93.2
平成30年	きたほなみ キタノカオリ	2.7	21.6	582	438	3.7	2.9
		2.2		509		100.0	85.1

※平成30年における統情単収は、平成23年産から平成29年産の7中5の平均とした。

表3 品質測定値 (JA施設調製品平均値)

容積重 (g/ℓ)	F.N. (sec)	蛋白含量 (%)	灰分含量 (%)
843	414	12.1	1.48

4 小麦栽培技術上の特色

表4 耕種概要など

播種			土性	施肥 (kg/10a)					根雪始	雪腐病防除	
期	量 (kg/10a)	方法		区分	窒素	燐酸	加里	月日		時期	使用薬剤名
9/17	6.5	畦間 12.5cm ドリル播き	埴壤土	基肥	4.8	15.0	6.0	9/10	11/下旬	11/3	ランマンFL シルバキュアFL (ラジヘリ)
				起生期	6.1	0.0	6.1	3/31			
				幼形期	6.1	0.0	0.0	4/25			
				止葉期	6.1	0.0	0.0	5/24			

(1) 輪作体系の工夫

大豆となたねを導入して、小麦の連作を回避されています。なたねは透排水性改善と根域拡大を目的に地域でも早くから導入されました。なたね栽培後の土壌は膨軟化されて、後作物の収量向上を実感されています。また、輪作することで病害虫や雑草害を抑えることができています。

大豆やなたねは、小麦と同じ播種機を利用する狭畦栽培に取り組んでおり、機械投資することなく、新たな作物を導入されています。

狭畦栽培はカルチによる中耕除草ができないため、前作物から除草対策を徹底して雑草の少ない畑にすることで栽培を可能にしています。

(2) 排水対策の工夫

小麦作付前には必ずサブソイラーによる心土破碎を実施されています。作土層の排水性向上のためスタブルカルチを深めに、かつ、土壌中の耕起深を均一化するため重複しない形で2回施工しています(2回目は1回目の爪の間を施工)。細かく施工されるため圃場の排水性は向上しています。

トラクターの大型化により踏圧による土壌の締まりを実感されているため、土壌改良材や基肥の散布後は、播種前にスタブルカルチを施工して、トラクターの踏圧をリセットするようにしています。

額縁明渠は必ず施工して集中豪雨に備えています。

(3) 土づくりの工夫

麦稈などの作物残渣は、鶏糞と一緒に全量鋤き込みされています。また石灰資材も毎年施用して土壌pHの適正化を図っています。

前作物の根域を次作でも生かすために必要以上に深耕せずにスタブルカルチを多用した圃場づくりをされています。

(4) 栽培管理・作業の工夫

作業効率と発芽率向上を目的に、耕起・播種を同時に行うコンビネーション播種機を使用して適期播種に努めています。播種後は、ケンブリッジローラーで鎮圧して発芽率向上、除草剤の土壌処理効果の安定化を図っています。

GPSの利用により、夜間でも精密な作業が可能となったため、天候不順時でも適期作業を実践されています。

また、地域の仲間と無人ヘリの作業受託組織を立ち上げて、天候不順時でも防除作業等が可能な体制を作り上げています。

(5) 収量の向上、品質改善

大槻氏が営農する岩見沢市栗沢町はJA管内の中でも比較的雪が少ない地域ですが、融雪を早めることが収量に良い結果が出ると実感されているため、融雪材は必ず使用されています。

起生期は加里入り肥料を使用して粒の充実を図るほか、生育状況に応じた施肥を徹底して、過繁茂による倒伏や軟弱徒長にならないように努めています。

穂水分測定によって収穫適期を判定して、作業計画を立てて高品質小麦の収穫に努めています。

5 経営の工夫

機械費用を圧縮するため作業機械の汎用化を意識されており、大豆やなたねの播種機は小麦と同じ播種機を使用していますが、なたねの播種作業では独自の工夫を重ねて自作した部品を取り付けて改良し、播種精度を高めています。

小麦となたねは収穫時期が重なるため、なたねの収穫作業は地域の作業受託組織に委託して、作業分散を図っています。

所得確保のため、高収益作物である花きを栽培されています。花き部門の責任者は奥様が担われています。ご家族で分業制をとることで、家族労働力の効率的な活用と併せて、女性農業者の活躍を実践されています。

6 その他

いわみざわ農協青年部長として、営農セミナーや部員親睦会の開催および農畜産物PRイベントの実施など青年部活動の中心的な役割を担われてご活躍されました。

地域になかった無人ヘリの作業受託組織を立ち上げて、水稻防除、水稻・大豆間作小麦の播種、小麦の雪腐病防除、大豆の防除作業を地域農家から受託されています。

北海道農業士として、空知農業士会の会長も歴任するなど、JA管内も越えて要職を務められ、地域内の若手農業者や新規就農者の研修を引き受けるなど担い手育成と地域貢献も積極的に取り

組まれています。

さらに、3か年にわたった「きたほなみ1トンドりプロジェクト」に4戸の協力農業者の一人として参加され、管内の多収栽培技術の検討に貢献されました。プロジェクトの成果としてマニュアル本が冊子化されてJA管内の小麦農業者に配布され、小麦栽培技術の高位平準化のために活用されています。

（執筆者名：JAいわみざわ 営農相談部門 調査役 須田 信吾）
空知農業改良普及センター 専門普及指導員 川村 英司